

取組名称	らくがきウォール
団体名	ムスぶらざ若者ワーキングチーム
代表者氏名	嶋村 駿吾
地区名	松尾

取組の目的	<p>・ムスぶらざの活用を考える若者ワーキングチームとして、施設に対するニーズを把握し、今後の運営方針へ反映する。</p> <p>・来館者の声が発言に反映されていくことで、利用者が主体的となる。「自分たちの活動拠点にムスぶらざが使える」「ムスぶらざなら〇〇ができるかもしれない」など、多様な利用の可能性を知ってもらう。</p>
-------	---

具体的内容	<p>5/19(木)～5/22(日)の4日間、ムスぶらざ2Fフリースペース内の壁の一部にホワイトボードシートを設置する。設置目的は下記3点である。</p> <p>①利用者に対してムスぶらざにちての感想やこれからの期待について記入してもらう。</p> <p>②オープン当初に開催されたイベント等の様子が分かる写真を貼り、イベント等にリアルタイムで参加できなかった参加者にもムスぶらざの利用可能性を知ってもらう。</p> <p>③お子さんにもムスぶらざを楽しんでもらえるよう、お絵描きの場として使ってもらおう。</p>
-------	---



活動した結果、感想	<p>ホワイトボードを設置した結果、お絵描きのために多くの来館者に利用された。利用者は、幼児から小学生程度のお子さんのいる家族連れと友達グループで来館している高校生が目立ち、お絵描きを楽しんでくれている様子だった。小さなお子さんの利用が多かった理由としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムスぶらざの中で3階の駅前図書館以外に楽しめるスペースがないため ・壁一面におえかきができるということが、特別な体験であるため。と考えている。 <p>高校生の利用者は、友達と勉強している合間の息抜きにお絵描きを楽しんでいる様子が見られた。各々の目的のためにムスぶらざを利用しているだけの状態では、利用者間に交流はなくあくまで他人だが、皆が同じウォールにそれぞれらくがきを重ねていくことで、利用者間の直接的な交流はなくとも、他の利用者の存在を感じるツールとなっていた。</p>
-----------	---

活動した結果、感想	<p>当初想定していた効果が得られなかった点としては、らくがきウォールへ記載された感想・意見がポジティブなもの(おしゃれだったetc...)が多く、改善点としてのニーズ把握はできなかった。また、ツアーオブジャパン信州飯田ステージパブリックビューイングやアコースティックコンサートの様子を写真で掲示し、リアルタイムで観劇できなかった人にも様子を伝える取り組みを行った。オープン当初で利用者数も多かったことから掲示内容に目を留めてくれる来館者が多くいた。</p>
-----------	---

今後の活動	<p>らくがきを楽しんでくれる利用者の姿があったため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムスぶらざでイベントが開催されるタイミングに合わせたホワイトボードシートの設置 ・ボードの常設 <p>を事務局へ提案することで、今後の活動の展開を考えたい。ムスぶらざに対する意見・ニーズの把握を行うためには、今回の企画よりも閉鎖的で匿名性のある状態であった方が良かったことわかった。今回の収穫をもとに、ニーズ把握方法については、団体で別の手段を考えたい。</p>
-------	---

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	7,670
	うち助成金	7,670
主な経費内訳 (上位2項目)	ホワイトボードシート2ロール	5,454
	ホワイトボードシート2ロールマーカー7本	2,970

取組名称	SDGsを考えるはじめの一步 ～チームでまちづくりを疑似体験してみよう～
団体名	ムトスぷらざ 若者ワーキングチーム
代表者氏名	嶋村 駿吾
地区名	松尾

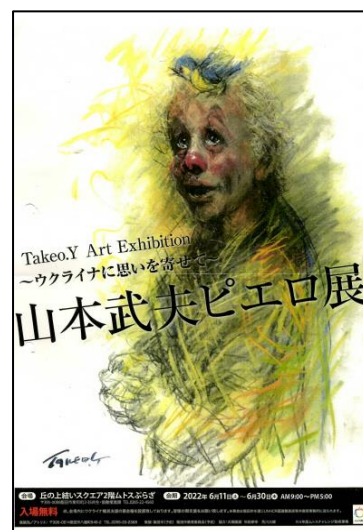
取組みの目的	ボードゲームのまちづくり疑似体験を通じて、若い世代がSDGsや地域経済に親しみを持ち自分ごととして考える力を養うことを目的とする。
具体的内容	SDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現を目指す世界共通の目標です。 日本政府も国内での取り組みを促進しており、飯田市においてもいいだ未来デザイン2028の中でSDGsを「新しいものさし」と位置づけグローバルな問題を地域の視点から捉えた施策推進しています。 しかし、SDGsの取り組みは行政だけでなく、市民ひとりひとりがこの目標を理解して取り組むことが重要です。イベントの参加者で、SDGsをテーマにしたまちづくりシュミレーションボードゲームをプレイすることを通じて、SDGsや地域経済について理解を深める機会にします。
活動した結果、感想	開催日時:9月2日 19時～ 開催場所:ムトスぷらざ2F 参加者 :8名 ワークショップの流れは 1.目的共有 2.自己紹介 3.SDGsの基礎知識 4.ルール説明・ゲームプレイ 5.振り返り の順に進めた。感想としては、参加者の約半数から「SDGsについて知らない、知るきっかけにしたい」という話があり、ボードゲームというカジュアルなツールで集うことで若い世代にSDGsや、地域経済への関心を持ってほしいという狙いがうまく作用していたように思う。
今後の活動	真面目な勉強会などではなく「ボードゲーム」というツールを利用することで楽しい印象を与え、多様な参加者層が見込めるとい効果がある。飯田下伊那地域に居住する社会人や高校生をターゲットとして、ボードゲームを利用した地域づくりを考えるワークショップを今後も展開していきたい。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	15,939
	うち助成金	15,939
主な経費内訳 (上位2項目)	みんなのまちづくりゲームin cities 2セット	15,939

取組名称	ウクライナ避難民支援絵画展 ウクライナに思いを寄せて ～山本武夫のピエロ展～
団体名	平和を願う絵画の会
代表者氏名	山本 武夫
地区名	松尾(八幡町)


取組みの目的	事業の実施により、募金をウクライナ避難民の支援に寄付します。紛争の悲惨さを表現する絵画ではなく、ウクライナの文化を知ってもらえるような絵画を展示し、多くの方に、本当のウクライナのすばらしさを知ってもらい、1日でも早い平和が取り戻せることを願います。
具体的内容	開催日：令和4年6月10日(金)～6月30日(木) 会場：ムスぷらざ 2階フリースペース (1)ウクライナの平和を願う絵画の展示(30点程度) (2)絵画展にお越しなされた方からの募金
活動した結果、感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナの平和を願う絵画の展示を実施し、多くの方にご観覧いただいた。 ・何度もお越しいただいたり、絵を見ながら涙を流される方もいたり、一刻も早く平和が来ることを願う主催者の思いを広く伝えることができたと思う。この展示をとおして、ウクライナへの思いや平和への思いを考えていただく機会になった。 ・募金も多くの方に協力いただき、共感を得ることができたと考えている。 ・今回の絵画展を実施したことにより、ムスぷらざの周知にも貢献できたと考えている。また、ムスぷらざの使い方の例を示すことができた一方で、課題も示すことができたと思う。多目的ホール利用団体との調整やフリースペースとシェアスペースのすみ分けなど、さまざまな立場の人が使いやすい施設になるよう検討をお願いしたい。
今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・絵画展の反響も多く、ぜひ巡回展をやってほしいとの声もいただいた。巡回展を企画していきたいと考えている。 ・絵を飾るだけではなく、どのような意図で絵を描いているかという思いをきちんと理解してもらいたい。 ・飯田女子高校の文化祭へ一部の絵画を展示することになるなど、高校生とのつながりができた。今後も高校生と一緒になにか活動できればと考えている。



○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	107,289
	うち助成金	50,000
主な経費内訳 (上位2項目)	額縁・マット代	88,000
	フライヤー・ポスター印刷代	14,289

取組名称	フランスから学ぶ交流会「子どもたちは給食でどう変わる？」
団体名	子どもの食・農を守る会伊那谷
代表者氏名	関島 百合
地区名	松尾(毛賀)

取組みの目的	有機(持続可能な農産物)を給食に取り入れるフランスの取組を飯田市にも生かす。
具体的内容	2022年8月1日 13:30～飯田市公民館多目的ホールにて交流会を行う。 午前中は飯田市を表敬訪問し、市の関係者と意見交換する。 飯田市を中心とする子育て世代から栄養士などを含む市民が対象。 子育て世代に特に興味を持ってもらい、飯田市の施策に生かせる。
活動した結果、感想	子育て世代から退職した世代のほか、下農・飯田女子短大の生徒の来場と、北海道や静岡県などからのオンライン参加もあり、食と農の課題は普遍的であることを実感した。また、これまでの活動が土台になり、行政の方も交えて市民が考え合う場を持つことができたと思う。 
今後の活動	2018年から毎年1回メインとなる学習会を開いているため、今後も同様に取り組みたい。今後は若い世代を巻き込みながら活動をバトンタッチできるように人材を育てたい。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	46,316
	うち助成金	46,316
主な経費内訳 (上位2項目)	講師謝礼4人分	20,000
	チラシデザイン料	8,800


取組名称	猿倉の泉に明かりを灯すプロジェクト 其の1
団体名	茶の湯会
代表者氏名	代田 康弘
地区名	羽場 大休

取組みの目的	猿倉の泉にある茶室は、施設の立地環境(電気無し、湿気が酷い等)から、観光資源として活用することは出来ていない。そこで、有志による茶の湯会では、茶室を活かす方法について研究し、観光資源のいち施設に活かすより取り組みを行いたい。	
具体的内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 茶室を明るくする整備(発電機の設置、照明の配置、障子の張替え、畳の清掃等) 2. 茶室を使った茶の湯研修 	
		
	障子の張替え	女子トイレ入口 照明器具取付状況
活動した結果、感想	<p>駐車場横にあるトイレが暗く使用したくないトイレであったが照明5器を取り付けたことにより気持ちよく使えるようになり、特に女性から好評を得ている。茶室の障子の張り替えをしたことにより茶室での呈茶が現実的になり、来年には一般客に呈茶する予定。これにより野点と本格的な茶室でのお抹茶提供ができる事になり多くの方に来ていただけたと思う。</p> <p>11月26日(土)に開催された「南信州屋台フェス」に合わせ、かざこし子供の森公園 から「猿倉の泉」をウォーキングコースとする「信濃路自然遊歩道ウォーキングツアー」を開催し、茶室での呈茶を実施した。今後の活動展開が期待できる運びとなった。</p>	
今後の活動	<p>現在、市の商業観光課とJR東海との連携による「さわやかウォーキングツアー」事業を令和5年6月に開催することで進めている。これは、JR東海が企画・運営するウォーキング事業で、10kmkのコースに「猿倉の泉」を組み込みお抹茶のおもてなしにより猿倉の泉の観光をPRしていくもの。参加者を100名程度見込むことから、今後は受け入れ態勢の構築と、対応できる備品の整備を行いたい。</p>	

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	71,000
	うち助成金	50,000
主な経費内訳 (上位2項目)	センサーライト4基取付	50,600
	茶室障子の張り替え	15,400


取組名称	下伊那農業高校×南信州うまいもん会議「地域おこし弁当企画」
団体名	南信州うまいもん協議会・下伊那農業高校アグリサービス科
代表者氏名	北原 広康
地区名	伊賀良

取組みの目的	下伊那農業高校アグリサービス科では、農業生産をもとに「生産→流通→消費」まで学習し農業の繋がりを学習しています。地域企業を巻き込みながら、地域を盛り上げていく学習を行い、地域の飲食店の協力のもと、弁当の共同開発を実施します。
具体的内容	<p>地域の飲食店6店舗と共同し、地元食材をメインとしたお弁当の開発、販売します。 実際に生徒たち自らが販売までを授業の一環として実施いたします。</p> <p>連携企業：テンリュウ堂、からあげピリー、かなえ茶屋、やわらの、MONDO、あずまし屋</p> 
活動した結果、感想	地域食材を使った新しい調理方法だったり、地域住民の方の関心度の高さを感じることができた。
今後の活動	継続することが重要と考えています。下伊那農業高校での授業として、来年度も継続される場合には、引き続き活動を行う考えです。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	52,300
	うち助成金	50,000
主な経費内訳 (上位2項目)	チラシデザイン	30,000
	販売会 当日運営管理	17,000



取組名称	地域のイベントを魅力的に伝えるPR動画作成
団体名	
代表者氏名	柏木 勝
地区名	千代(千栄)

取組みの目的	<p>大竜峡で行われるイベントCCC(コーヒー/カレー/キャンプ)FES(仮)のイベントのアフタームービーを制作してPRに繋げたい。 大竜峡周辺の景観や農家民泊などの暮らしも動画に入れることで、関係人口の創出につなげる。 このようなPR活動を定期的に行い、飯田市の魅力を紹介してより多くの人へ魅力を伝えていきたい。</p>
具体的内容	<p>10/23(日)にテンリユウ堂さんらが主催で大竜峡にて開催するCCC(コーヒー/カレー/キャンプ)FES(仮)へ都内から出店者を招致するお手伝いをさせていただくのですが、こちらのイベントのアフタームービーを制作してPRに繋げたい。</p> <p>出店店舗: OYORITE LAB. (プリントワークショップ) ONK sit(フードショップ) ZUZUZU(アパレル雑貨販売)</p> 
活動した結果、感想	<ul style="list-style-type: none"> ・東京から参加した出店者や遊びに来てくれた人全員がまず飯田市という所を知ってくれて、良い場所だと感じてくれたという感想が得られたのでその点が一番良かったと思います。 ・撮った動画を個々のSNSで拡散する事で、フォロワーに対してリーチする事が出来たのでその点もPRに繋がっていると感じました。 ・10名にSNSでシェアを行い、5,000~10,000フォロワーへPRができた。
今後の活動	<p>飯田市との関係人口を創出する為に定期的にこのようなイベントに東京からの参加者を連れて行ったり、イベント自体のPR動画をよりかっこよく撮る事で飯田市のPRに繋がれば良いなと思っています。</p>

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	100,000
	うち助成金	50,000
主な経費内訳 (上位2項目)	PR動画制作費	50,000



取組名称	こども将棋教室 <SHOUGI、KIDS、GARDEN>
団体名	飯田市将棋愛好会
代表者氏名	井澤 忠好
地区名	上郷

取組みの目的	子どもたちに将棋の楽しさを知ってもらうとともに、人生を豊かにする将棋の素晴らしさを広く理解してもらう。
具体的内容	<p>会場：飯田市公民館(ムトスぷらざ)で将棋教室を実施 受講者：17名(小学校2年、3年4年生と大人3人) 将棋に使用する駒、駒代、将棋盤、対局時計が備品として必要である</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
活動した結果、感想	将棋初心者の棋力が向上し、和気あいあい楽しい雰囲気の中で、教室を遂行できました。小学2年生～4年生の他に大人3名の参加もあり、講師陣を含めて世代間交流を図れたこともうれしいことでした。
今後の活動	更なるレベルアップを目指して、こども将棋教室を継続していきたい。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	60,145
	うち助成金	44,000
主な経費内訳 (上位2項目)	対局時計、踏み台	44,145
	講師謝礼	6,000

取組名称	遊休農地の活用と、市田柿づくりの伝承
団体名	市田柿づくりをやらまい会
代表者氏名	佐藤 智英
地区名	伊賀良

取組みの目的	市田柿の認知度を広めることができ、将来の担い手不足解消につながる。
具体的内容	<p>親子や子どもたちと一緒に市田柿づくりを行う。 具体的には、柿の収穫から干すまでの一連の作業に取り組む。 10/30(日)に親子(南信州プラットフォーム参加および一般参加者 総勢30名程)が柿畑に集まり、柿の収穫を行います。収穫後は野池公会堂にて皮むきを行い、柿暖簾に柿を吊るした後、硫黄燻蒸を行い、その後は各家庭に持ち帰り干し作業を行います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">室内での市田柿づくり体験 柿畑での収穫体験</p>
活動した結果、感想	<p>親子で参加していただき、柿の収穫から皮むき、柿暖簾への取り付け、硫黄燻蒸を経験することで、市田柿(干柿)の作り方を知っていただくことができました。 体験後は、「干柿」が苦手な子どもも自分の作ったものは食べたいと言ってくれ、干柿に興味を示してくれるようになりました。(現在は各家庭で柿を干しています) 硫黄燻蒸をなぜ行うなどの疑問にも答えることができ、地域の特産物の作り方について認知度を上げることができたと感じています。</p>
今後の活動	<p>収穫から柿を干す工程までは学ぶことができたので、今後は柿の栽培を学ぶ機会を作っていきたいと思っています。 具体的には、枝の剪定作業や摘果などを行い、どのような工程で柿が育っていくかを子どもを含む様々な方と学び、地場の産業を学んでいきたいと考えています。</p>

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	36,375
	うち助成金	36,255
主な経費内訳 (上位2項目)	燻蒸庫ビニールシート購入	10,800
	柿暖簾・Sフック購入	8,300

○お願い

- ・列の巾は変えないでください。
- ・上下左右の余白(1.5)は変えないでください。

取組名称	イダウェーブフェスティバルによる音楽家育成と交流
団体名	ミュージックウェーブイダ
代表者氏名	加藤 修司
地区名	橋南

取組みの目的	多くの地元ミュージシャンがコロナ禍で3年間停止していた音楽活動を再び楽しみ、つながりを作り、地元を盛り上げるきっかけとなる機会を作るイベントを行います。
具体的な内容	<p>演劇発表やファッションショー発表など、他団体とも連携し、演奏者、観客ともに楽しめるイベントになるよう計画しています。今回は初めて行う新しい取り組みであるということと、ムトスぷらざという新しい場所での取り組みになるため、幅広い告知が必要になります。</p> <p>日時:12月18日(日)10時～16時予定 対象:年齢性別問わず。 会場:ムトスぷらざ 内容:イダウェーブライブ、演劇発表、ファッションショーなど</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ライブの様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ランウェイショー</p> </div> </div>
活動した結果、感想	2020年度からコロナ禍となり、私どものメインイベントである音楽コンテスト「The FINAL」が開催できず、また実際にメンバーに会っての活動が全くできない状況でした。今回もまたコロナで開催が危ぶまれましたが、対策を施し、リアル開催に踏み切りました。3年ぶりの再会となったメンバーも多く、久しぶりに、音楽を通して、フードライブや子ども食堂、ダンスチームやおとめウェブのランウェイショーなどいろいろな団体が繋がり、交流する有様を目の当たりにしました。
今後の活動	過去20年間開催されていた音楽コンテスト「The FINAL」は、ただのコンテストではなく、このイベントを通して人と人、団体同士が繋がり、さらに新たな活動を生み出すきっかけづくりとなっていた場です。そういった場がなくなり、市民活動自体がかなり縮小されていることを改めて感じました。コロナ禍を経て、運営資金や運営メンバーの減少など、直面している状況はかなり悪く、今後の開催に対するハードルは非常に高いですが、今回の活動を通して、再度開催できるように動いて行きたいという思いを持ったメンバーが多かったです。今後も活動していきますので、ご支援よろしく願いいたします。

○取組経費 (単位:円)

	事業費総額	150,000
	うち助成金	50,000
主な経費内訳 (上位2項目)	音響・司会	80,000
	ポスターチラシ イラスト代	30,000